

埋木細工あれこれ

我が家にある埋木細工。茶托6、お客に茶をすすめるとき今も使っている。親の代から約80年前と思う。34年前、親が亡くなった折、自宅和尚さんにお茶をすすめるとき、茶托を見「これは埋木細工だから大事にするとよいよ。」といわれて、その茶托の存在を意識しました。現在も大事に使っています。 青葉区 W



「大日本何とか」と書いてあるので戦時中に配られたもの(A5くらい)です。もう一つはふつうの角型のお盆です(A4くらい)。 太白区 I

私も実家からもらってきましたが、現在は自宅のどこかに1個くらいあるかもしれませんか不明です。 若林区 Z

「わし」の置物あり。一部のりづけがはずれている。修理の方法、依頼先不明でそのまま。 O

小さいペンダントを持っています。仙台に移住した頃(約25年前)デパートで売っていました。いろいろな細工物と一緒に。 U

以前、駅前に埋木細工店があり、覗いていましたか持っていないです。とても細工が細かかったのを覚えています。 S

仙台空襲以前、家に(仙台市内東北電力近く)有りました。茶托5枚とお盆。これはうる覚えですが、経40cm~50cm位、厚くて中心の物を乗せる部分に何か彫って有り、親にこれは貴重品だと聞いていた。たぶん父が求めた物と思うか空襲後ない。焼夷弾。我が家も租界先(現福祉大裏西側)も直撃で焼けている。總二階の家二軒焼けた。平家には落とされなかった。 青葉区 O

埋木は今では仙台の名品として市販されています。茶托が始めですが、文箱・茶草子セット・銘々皿等デパートで名品としてうっています(忘れましたが製品に名前がありますね)。 泉区 N

小竹孝さんの師匠で屋敷を持っていた方が山埋木細工の初めの人。海外に輸出していた。 *

埋木製のカフスポタンとネクタイピンのセットになったものを転任祝いに記念品としていただいたことがあります。年に1回くらいは使っている。 太白区 K

茶托を使っています。埋木細工の工芸品が消えてしまうということで、10数年前に18,000円で亡夫に買ってもらいました。今でも大切に使っています。今となっては貴重品です。 太白区 A

埋木細工の置物は、昭和36年10月結婚した私たちに主人の上司より戴き、大事にしておりました。その方のお父上の作品と聞いております。またお妹様は私の中学時代の同級生でした。此の度老人クラブでこのアンケート用紙をいただき、愛着を感じ静かになでるよう布で磨きました。仙台には玉虫塗、堆朱などの名産品にも埋木細工がお店に並んでいました。 青葉区 W

実家の茶たんすの中に入っているのがめずらしくて母から頂戴して大事にしてありました。45年前のことです。この機会に思い出がしてみましたが現当りません。残念です。 青葉区 N

鷹・文箱・お香入れ・亀・茶托・お盆などを蚤の市、骨董屋等にて入手した。 M

昔あったがなげで今はない。名掛町の大竹お茶さんかそのあたりに埋木細工店があった。亜炭のはしのようなもので亜炭よりかたくしっかりしてポロポロくずれない。油でふくとつやつやして黒光した。つばき油を布にふくませ、よく表面をふいた。つやが出てピカピカした。戦災で燃えた。 太白区 N

かわいた布でつやぶきしている。 O



茶托(3組)、組小皿、しゃもじ、スプーン、ペンダントヘッド、カフスポタン、ペーパーナイフを持っている。全部自家の持ち物。入手はほとんど貰い物で親戚や周囲に埋木細工の価値を分る人がいたから。 泉区 T

かつて持てはやされた材料が、時代に合わないという理由で地中に未だに存在しているのに、見放されたままになるのは悲しいです。埋木細工技士の方が仙台に1人しかいないのも寂しいです。 青葉区 T

前の家にはあったが処分しました。 太白区 A

あります。亀ちゃんの置物。 青葉区 N

御朱印帳・杖・箸立て I

作る人、売る人

私か5~6歳の頃でした。父は当時東北大学の工学部の金属学部で勤めていたのですが、終戦後どこで身に付けたのか、母と2人で埋木細工の仕事を始め、80歳近くまで工作の仕事をしておりました。現在は材料も少なく、また作品を作る人もなくなり私自身はとても淋しく思います。 泉区 O

実は今我が家の「家系図」を作成しているところです。三代前の母方の関係者に埋木細工の職人だった由。その代から先が半明でいづにいての・・・手かかりもなく当時の川内近辺の山屋敷にお住まいしていた由。職人の方を探しております。 青葉区 H



戦前に義姉の嫁ぎ先の舅が埋木細工職人をしていた。当時茶托や菓子皿などを作っていた。孫の時代で現在はしていません。 青葉区 K

自宅にあります。家内の実家が埋木製作。全国に発送しました。 青葉区 I

お祖父さんの代から埋木細工店を営んでいた。材料の中には不純物が染み出てきてしまうものもあるので、同じ材料から製品を作るときは一度に何個か作っていい物を商品としていた。埋木細工を作ったときに出た破片をお風呂の焚きつけに使っていた。火持ちがとても良いので現在も使っている。主人が15~6年前に亡くなってからはもう作る人がいなくなりました。 太白区 K *

銘々皿・茶托・茶味・箸置き・灯籠・鷹の置物などを、昔、父が作っていた。 泉区 O



昔から家に置いてあったもの。今は重いのでほとんど使用していない。たまに鍋敷きの台を使用する程度。 青葉区 T

友人のおじいさんが職人さんだったので、アクセサリをいただいたことがあった。(ペンダント・ブローチなど)今はありません。 宮城野区 S



出生地に於て祖父が埋木工場を営んで、工人も存在していた。私が出生した1935年に父が死亡しているため、多少父の手掛けたと思われる物を大切に保存している。また、中学時代から祖父の古いカバーをし、多少細工を手伝ったこともあったし、小学4年頃から祖父とともに問屋の注文品を大風呂敷で包み、そして背中に背負ったり手伝いをしたものです。 宮城野区 K

父親が職人だった。磨くときはサメの皮で。 S

八木山橋側で亜炭を掘り、亜炭屋をしていた。おじいさんは埋木職人でした。 若林区 G *

いろいろの天井に並べて。 S



娘さんに聞いてきた。20年くらい前まで埋木細工職人の安齋さん・橋川さん・小竹さん竹田さんなど20~30人の工人全ての刃物を作っていた。20cmあったものが10cmくらいになり、曲げなおして再度使う。もっと短くなると補助に木を足して使った。 若林区 Y

お母様のお姉さんが埋木細工店に勤めていた。 N *

自宅の隣が埋木細工を作っていた。自宅にも埋木細工や化石もあったが、仙台空襲で焼けてしまった。「四谷用水」=防火用水 郷六「水にうつる月」という本でも仙台の地質が分かります。 青葉区 I *

『亞炭香古学』 — 足元の仙台を掘りおこす —

せんだいマチナカアート2012

亜炭香堂2階「わが家の埋木細工展」は皆様のご協力のおかげをもちまして盛況のうちに無事終了いたしました。貴重な埋木細工をお貸しいただいた方々に関係者一同心より厚く御礼申し上げます。

世界でも珍しい炭化木材による工芸文化は、実物を次世代へ受け継いでいかなければ伝わりません。たとえ時代に波に埋もれたものでも、その一カケラにしみ込んだ時間を愛でましょう。

ウモレタラホリオコス

亜炭香報のバックナンバーは以下のサイトでご覧いただけます
<http://sendaicf.jp/machinaka2012/blog/date/>

主催/仙台市、(公財)仙台市市民文化事業団 企画構成・亜炭香報編集/伊達伸明

ご協力御礼